

東証 プライム：4187

見えないけれど、
あなたのそばに

2022年11月期第2四半期

2022年7月7日

決算説明会資料



“特殊アクリル酸エステル”のリーディングカンパニー
大阪有機化学工業株式会社

◆ 2022年11月期 第2四半期 決算概要

◆ 2022年11月期 業績予想

◆ トピックス

外部状況

新型コロナウイルス感染症の影響は続くものの、工業生産は回復基調となり、各種イベントも再開されてきています。一方で、地政学的リスクの高まり、原油高・円安などによる原材料価格や燃料・電力コストの上昇等により、先行き不透明な状況となっています。

売上高

自動車減産の影響で一部の製品は低調でしたが、全体的には堅調に推移しました。また、半導体材料は引き続き好調を維持しており、売上げを牽引しました。この結果、売上高は、161億4千4百万円となりました。
(旧基準で前年同期比+11.7%)

営業利益

各セグメントの売上高が堅調に推移し、営業利益は33億2千万円で、半期として最高益となりました。
(旧基準で前年同期比+17.8%)

(百万円)

	2021/05 実績	2022/05 予想	2022/05 実績	前年同期比	
				増減額	増減率
売上高	16,933	16,200	16,144 ※18,918	— ※+1,985	— ※+11.7%
営業利益	2,842	2,900	3,320 ※3,348	— ※+506	— ※+17.8%
経常利益	3,086	3,000	3,526 ※3,554	— ※+468	— ※+15.2%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,246	2,050	2,448 ※2,476	— ※+230	— ※+10.2%
国内ナフサ (¥/KL)	43,400	54,000	74,800	—	—
為替 (¥/\$)	107	110	119	—	—

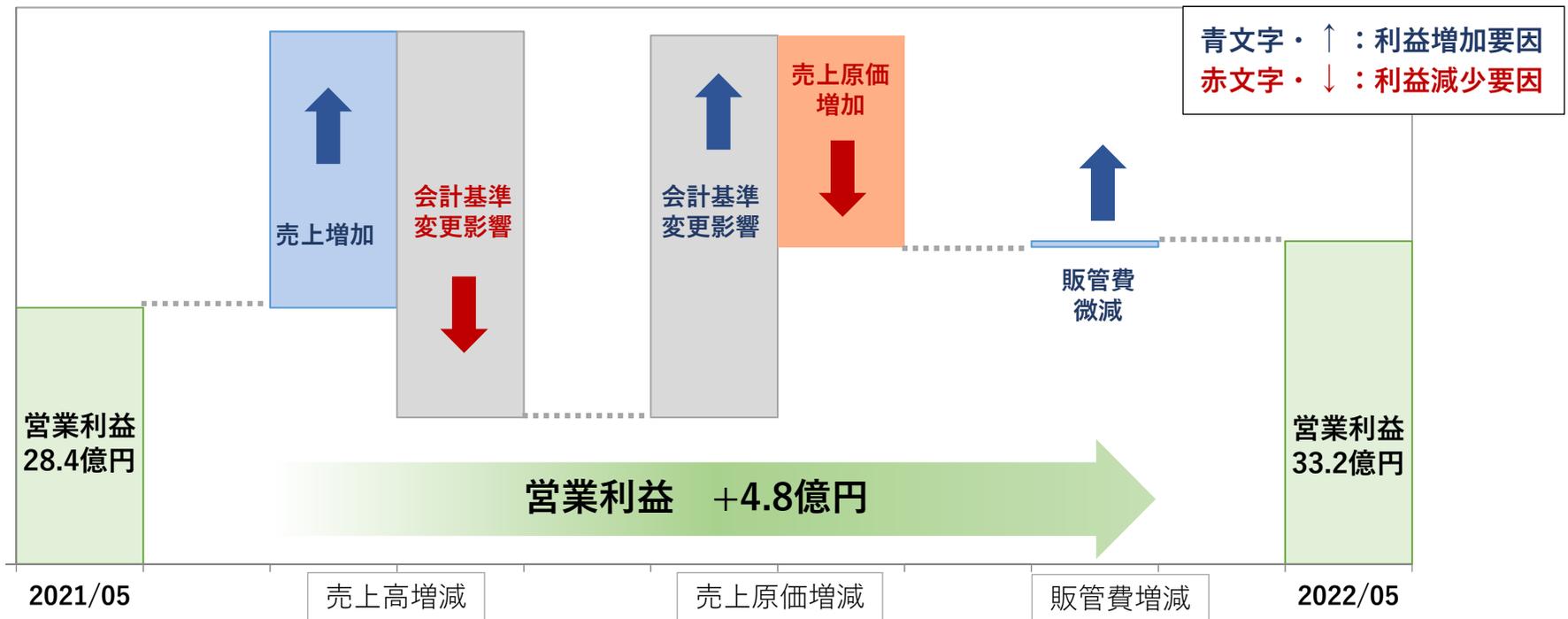

 新会計基準

2022年より「収益認識に関する会計基準」等を適用しています。

※は、旧基準で算出した参考値となります。

2022年11月期 第2四半期 決算概要

原材料費・燃料費・電力費などの高騰がマイナス要因となりましたが、売上高は堅調に推移し、営業利益は前年同期に対し、4.8億円の増加となりました。



■ リスク要因の影響度

項目	利益影響度
ナフサ・原料費高騰	2022年の国産ナフサ価格は、1Q：64,600円/KL、2Q：85,000円/KLで推移。化成品はナフサに連動した価格修正を実施中。
燃料・電気代値上がり	燃料・電気代上昇の影響額は前期比で+1.8億円。運賃・その他経費もあわせて、価格是正を交渉中。
円安	売上げへの直接的な影響は軽微。輸入原料の価格が上昇しているため価格是正を交渉中。
ロシア・ウクライナ侵攻	今のところ大きな影響は見られない。一部原料でアロケーションを受けているが、生産に問題なし。
上海ロックダウン	影響は受けたが、上期を通してみれば大きな影響には至らなかった。子会社の光碩(上海)化工貿易における上期売上高は前年比137.6 %。

セグメント実績

■ 化成品

自動車塗料用途が低調でしたが、UVインクジェット用インク向けや光学用粘着剤用途では堅調に推移し、全体として**増収・増益**となりました。

■ 電子材料

表示材料の需要に弱さが見られますが、半導体材料の需要は引き続き旺盛に推移し、**増収・増益**となりました。

■ 機能化学品

2021年2月に事業譲受した化粧品原料事業分の上乗せや特殊溶剤の需要が好調で**増収**となりましたが、原燃料価格・償却費などの製造コスト増加により利益は**微増**にとどまり、利益率は**低下**しました。

(億円)

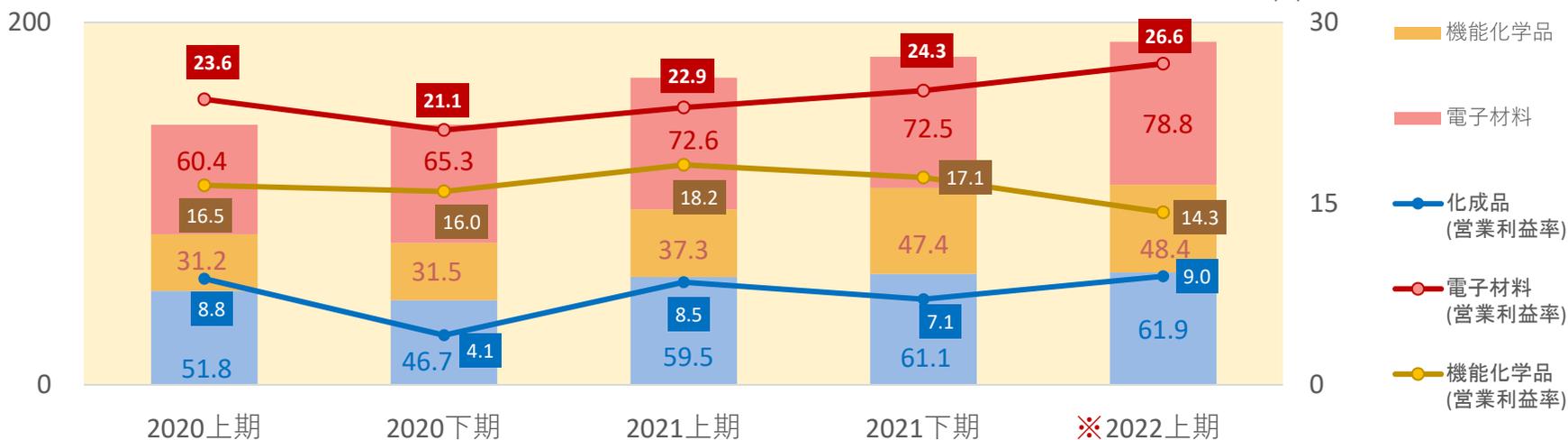
	化成品	電子材料	機能化学品
売上高	56.52 ※61.92 (YoY: +4.2%)	75.41 ※78.81 (YoY: +8.6%)	29.50 ※48.44 (YoY: +30.0%)
営業利益	5.56 ※5.56 (YoY: +10.1%)	20.66 ※20.94 (YoY: +25.7%)	6.91 ※6.91 (YoY: +1.9%)

※: 旧基準で算出した参考値

売上高
(億円)

セグメント売上高と営業利益率

営業利益率
(%)



* グラフは比較のため旧基準値を使用

セグメント実績 （*旧基準値での比較）

◆半期比較

（単位：億円）

		2021年		* 2022年	YoY (vs.2021年上期)		HoH (vs.2021年下期)	
		上期	下期	上期	増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	化成品	59.4	61.1	61.9	+2.4	+4.2%	+0.8	+1.3%
	電子材料	72.6	72.4	78.8	+6.2	+8.6%	+6.3	+8.7%
	機能化学品	37.2	47.3	48.4	+11.1	+30.0%	+1.0	+2.3%
営業利益	化成品	5.0	4.3	5.5	+0.5	+10.1%	+1.2	+28.4%
	電子材料	16.6	17.6	20.9	+4.2	+25.7%	+3.3	+18.7%
	機能化学品	6.7	8.1	6.9	+0.1	+1.9%	△1.2	△14.9%

◆四半期比較

（単位：億円）

		2021年				* 2022年		YoY (vs.2021年2Q)		QoQ (vs.2022年1Q)	
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	化成品	28.5	30.8	29.9	31.1	30.9	30.9	+0.0	+0.2%	△0.0	△0.2%
	電子材料	35.4	37.1	34.6	37.7	42.2	36.5	△0.6	△1.7%	△5.7	△13.5%
	機能化学品	16.8	20.3	23.6	23.7	23.2	25.2	+4.8	+23.8%	+2.0	+8.7%
営業利益	化成品	2.4	2.6	2.3	1.9	2.5	2.9	+0.3	+14.2%	+0.3	+14.7%
	電子材料	9.7	6.9	7.3	10.2	11.7	9.1	+2.2	+31.8%	△2.6	△22.4%
	機能化学品	3.2	3.5	3.9	4.1	3.2	3.6	+0.1	+2.8%	+0.4	+13.3%

営業外損益

営業外収益では、為替差益が増加しました。前期にあった補助金収入が今期はありませんでした。

営業外費用では、今期は自己株式取得費用が発生しました。

特別損益

特別利益では、前期に土地の売却益がありましたが今期はありませんでした。

特別損失は、特にありませんでした。

(百万円)

	2021/05	2022/05	増減額	
営業外収益	247	221	△26	→
				為替差益 +36百万円
				補助金収入 115 ⇒ 0 百万円
				他
営業外費用	3	15	+12	→
				自己株式取得費用 10百万円
				他
特別利益	119	—	△119	→
				固定資産売却益 118 ⇒ 0 百万円
				他
特別損失	4	0	△4	→
				固定資産除却損 4 ⇒ 0 百万円
				他

青字：利益増加要因
赤字：利益減少要因

貸借対照表

	(百万円)			
	2021/11	2022/05	増減額	
資産				
流動資産	28,088	30,247	+2,159	→ 現金及び預金 +248百万円 受取手形、売掛金及び契約資産 +1,030百万円 (収益認識基準適用による契約資産増加)
有形固定資産	15,609	15,441	△168	原材料及び貯蔵品 +605百万円 (原燃料価格高騰により金額増加) 他
無形固定資産	141	128	△13	→ のれん △10百万円 他
投資その他の資産	6,028	5,898	△130	→ 投資有価証券 △34百万円 他
負債				
流動負債	8,687	9,668	+981	→ 支払手形及び買掛金 +1,269百万円 (原燃料価格高騰により金額増加) 他
固定負債	2,055	1,771	△284	
純資産	39,125	40,277	+1,152	→ 利益剰余金 +2,169百万円 自己株式 △1,090百万円 他
総資産	49,868	51,717	+1,849	

今後の財務指標

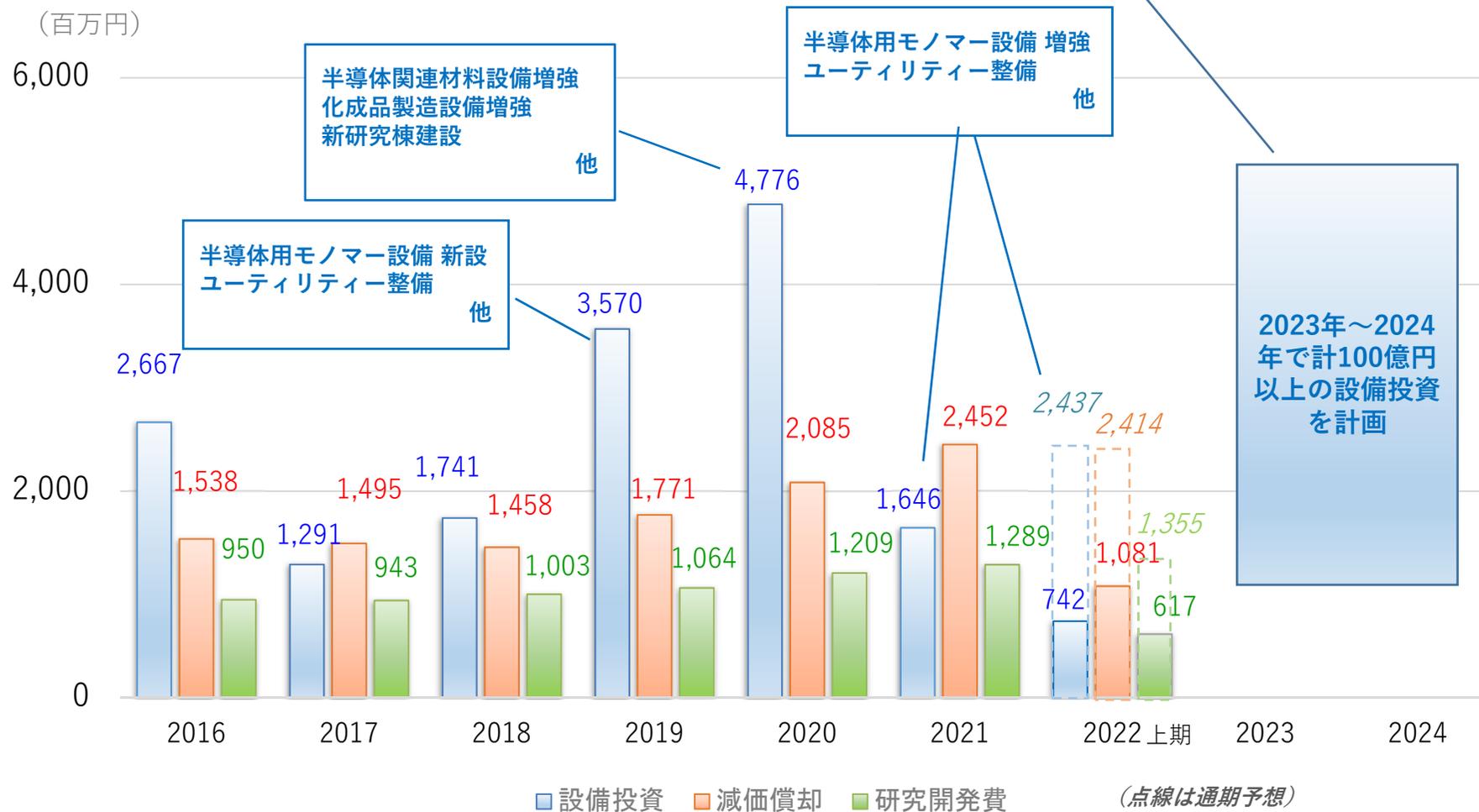
	2022/05時点	今後の目安
自己資本比率	76.9%	—
手元流動性比率	3.2ヵ月	3.0~4.0ヵ月
DEレシオ	0.05	0.2以下
ネットDEレシオ	-0.21	0以下 (実質無借金)
インタレスト・カバレッジ・レシオ	1,027倍	200~400倍

(百万円)

	2021/05	2022/05	
営業活動によるCF	2,834	2,814	→ [主な内訳] 税金等調整前四半期純利益 3,525百万円 減価償却費 1,071百万円 売上債権及び契約資産の増減額(△は増加) 141百万円
投資活動によるCF	△1,066	△702	→ 棚卸資産の増減額(△は増加) △1,314百万円 仕入債務の増減額(△は減少) 1,239百万円 法人税等の支払額(△は支払) △1,561百万円 他
財務活動によるCF	△939	△1,973	→ 有形固定資産の取得による支出 △811百万円 (半導体関連製造設備) 他
現金及び現金同等物に係る 換算差額	72	110	→ 長期借入金の返済による支出 △383百万円
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	900	248	→ 自己株式の取得による支出 △1,109百万円 配当金の支払額 △553百万円 他
現金及び現金同等物の 四半期末残高	7,412	9,842	

設備投資・減価償却・研究開発費の推移

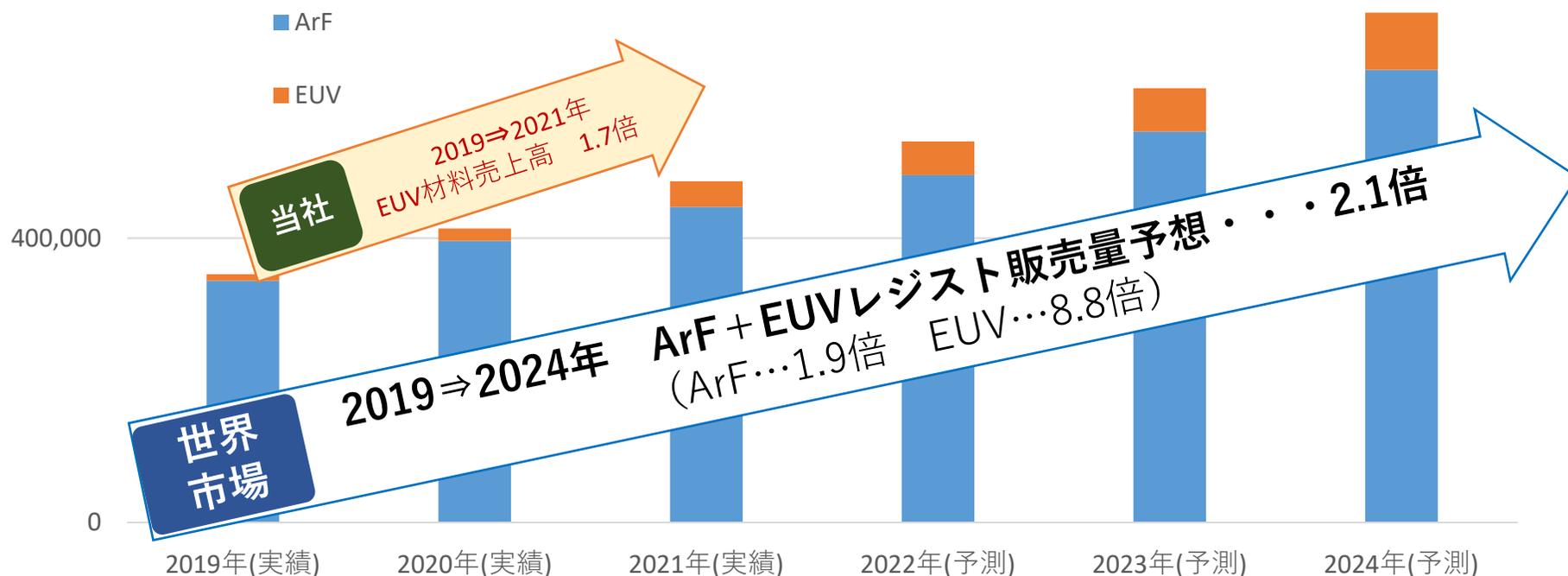
* 中期経営計画にて、2020年～2024年度までの累計で約200億円の設備投資を計画しております。



- ・ 2024年に半導体材料(ArF+EUUV)の販売量は2019年比で約2.1倍となる見込みです。
- ・ 当社の生産能力は、設備投資により2019年比で約2.5倍に増強する計画です。
- ・ 最先端のEUUV関連材料の売上高は、2021年に1.7倍 (vs.2019年) と、順調に伸びています。

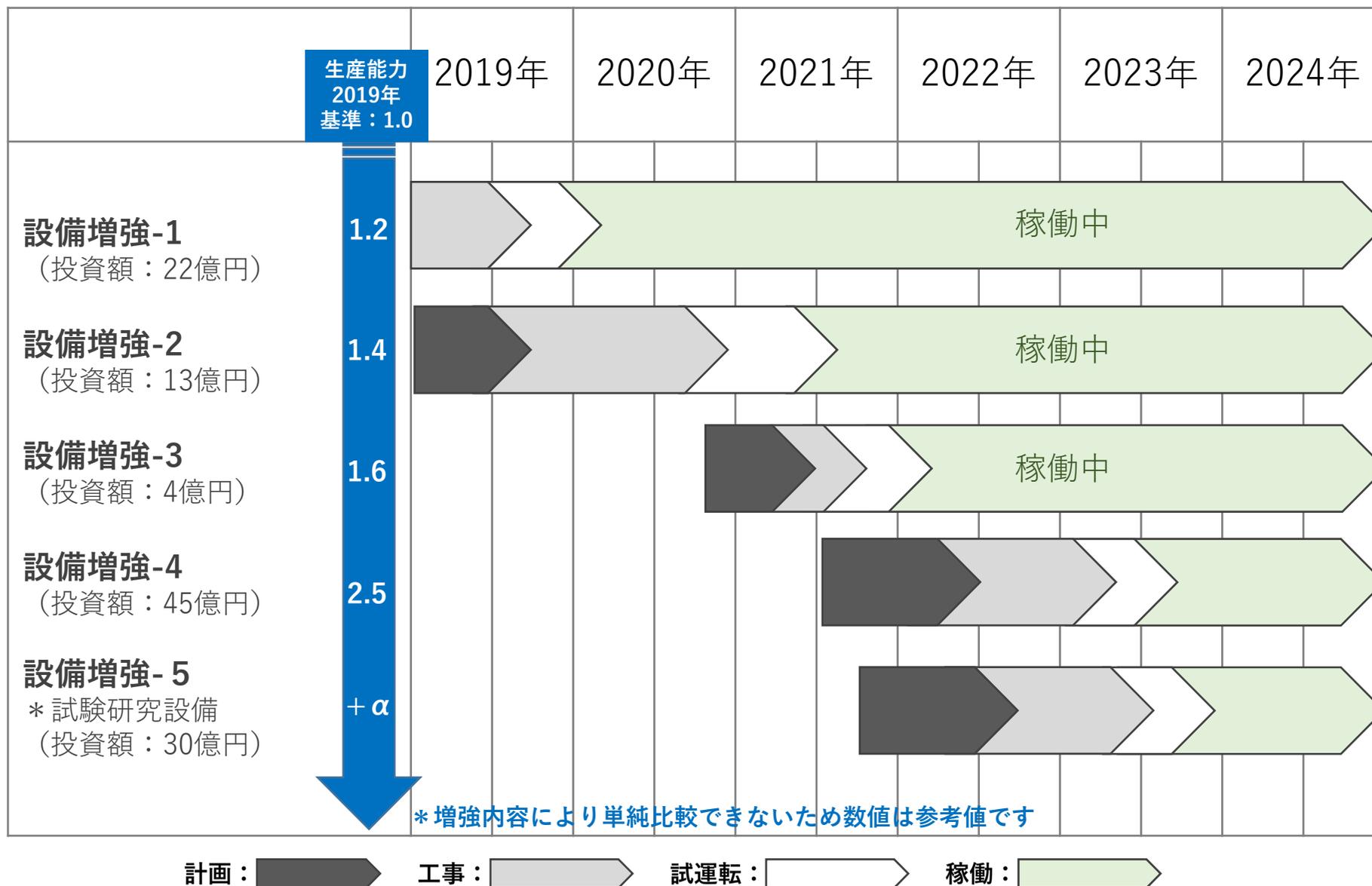
レジスト販売量
(ガロン)

(株)富士経済；「2022年 半導体市場の現状と将来展望」より当社で作成



当社 2019⇒2024年 半導体材料生産能力を2.5倍に増強する計画

◆半導体材料製造設備の増設スケジュール



◆ 2022年11月期 第2四半期 決算概要

◆ 2022年11月期 業績予想

◆ トピックス

2022年11月期は売上高が330億円、営業利益が59億円と予想しております。
 上期における進捗率は売上高が49%、営業利益は56%となりました。
 急激な円安・原油高などによる不透明感があり、通期業績予想の修正は見送っております。

(百万円)

	2021/11 実績	2022/11 予想	前年実績比		2022/05 上期実績	半期 進捗率
			増減額	増減率		
売上高	35,027	33,000 ※37,888	— ※+2,861	— ※+8.2%	16,144 ※18,918	49% ※50%
営業利益	5,852	5,900	+48	+0.8%	3,320	56%
経常利益	6,253	6,150	△103	△1.7%	3,526	57%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4,998	4,200	△798	△16.0%	2,448	58%
国内ナフサ (¥/KL)	50,750	54,000	—	—	74,800	—
為替 (¥/\$)	109	110	—	—	119	—

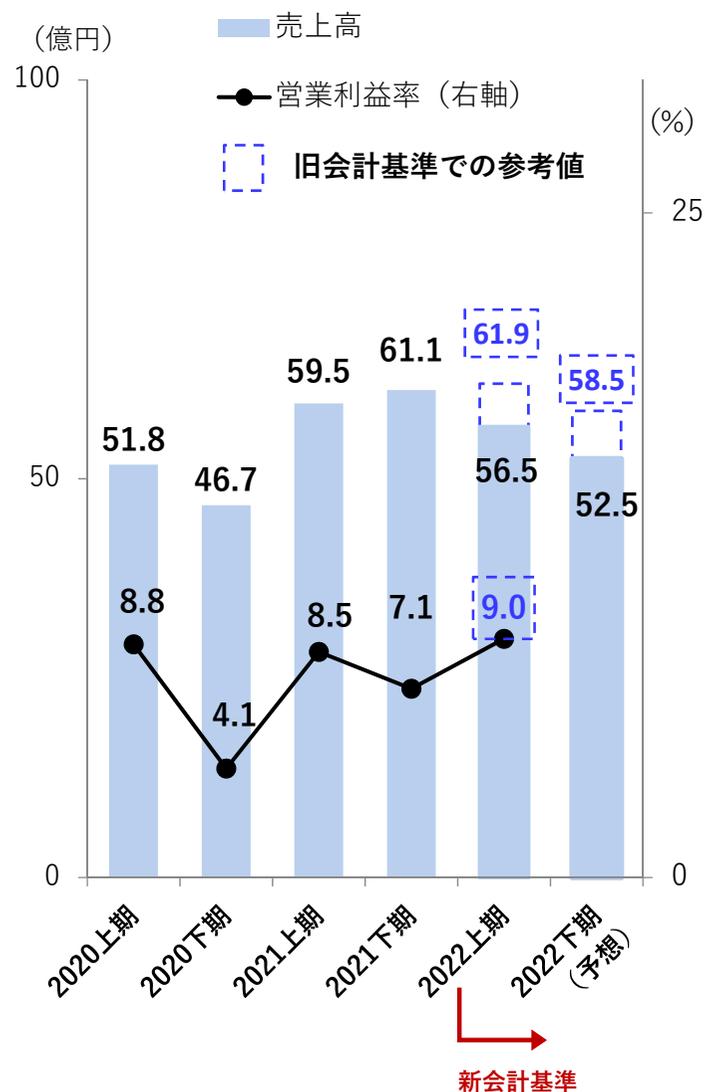
→ 新会計基準

2022年より「収益認識に関する会計基準」等を適用しています。
 ※は、旧基準で算出した参考値となります。

業績予想

上期実績 **+1%** (対2021年下期：旧基準値)

下期予想 **△5%** (対2022年上期：旧基準値)



外部環境

- 上海のロックダウンや半導体不足などにより、自動車産業は世界的に減産が続いている。
- 一方で経済活動を再開する動きも高まっており、これまで中止されていた展示会やイベントが復活。

当社の状況

- 下期は、ディスプレイ市場の動向が不透明。

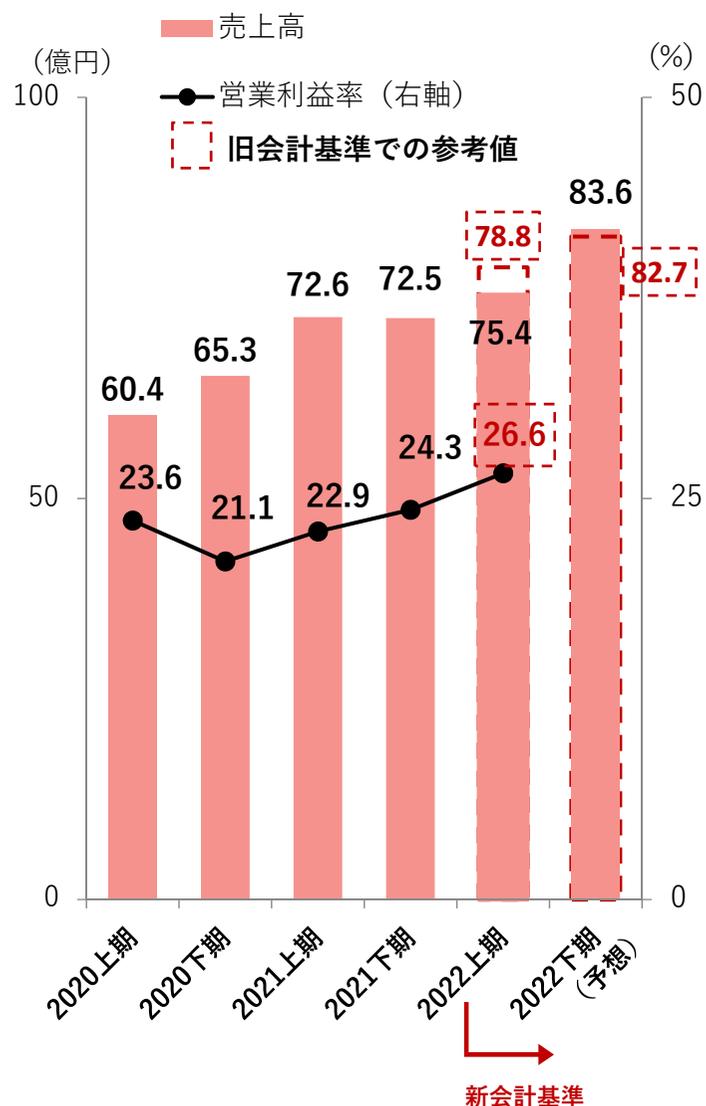
市場におけるリスク

- 原油価格の高止まり。
- 更なる円安による物価上昇。
- 天然由来原料相場の高騰。

業績予想

上期実績 **+9%** (対2021年下期：旧基準値)

下期予想 **+5%** (対2022年上期：旧基準値)



外部環境

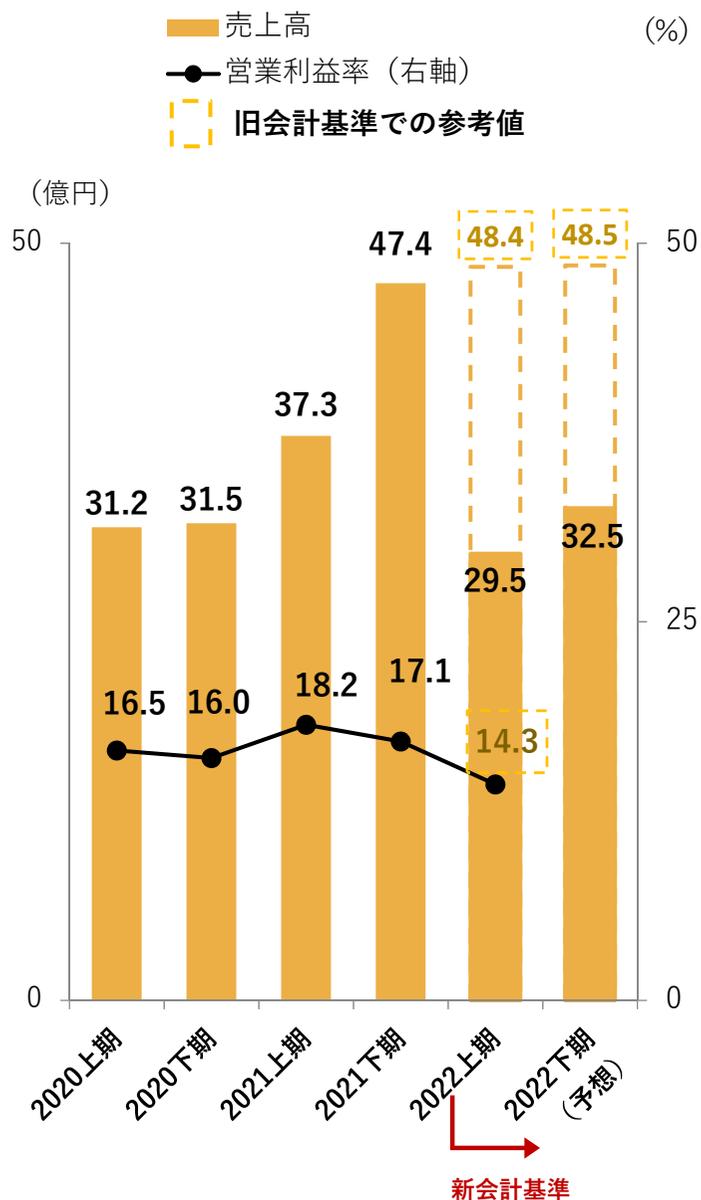
- テレワークで増加していたディスプレイ需要が減少し、パネル価格は下落傾向。
- 半導体は好調を維持しており、半導体製造装置への投資も引き続き旺盛。

当社の状況

- 最先端のEUV材料は順調に増加する見込み。
- 下期は表示材料で顧客の生産調整が継続。

市場におけるリスク

- 地政学的リスクの高まり。
- テレビ・スマートフォンの市場減退。



業績予想

上期実績	+2%	(対2021年下期：旧基準値)
下期予想	+0%	(対2022年上期：旧基準値)

外部環境

- 日本の化粧品市場は回復に遅れがみられる。
- 中国・上海のロックダウンは、概ね解除された。

当社の状況

- 化粧品原料は在庫調整。
- 特殊溶剤は堅調に推移する見込み。

市場におけるリスク

- 中国のゼロコロナ政策による新たなロックダウン等による市場の冷え込み。
- 物価高が進むことによる消費者の買い控え。

◆ 2022年11月期 第2四半期 決算概要

◆ 2022年11月期 業績予想

◆ トピックス

中長期経営計画

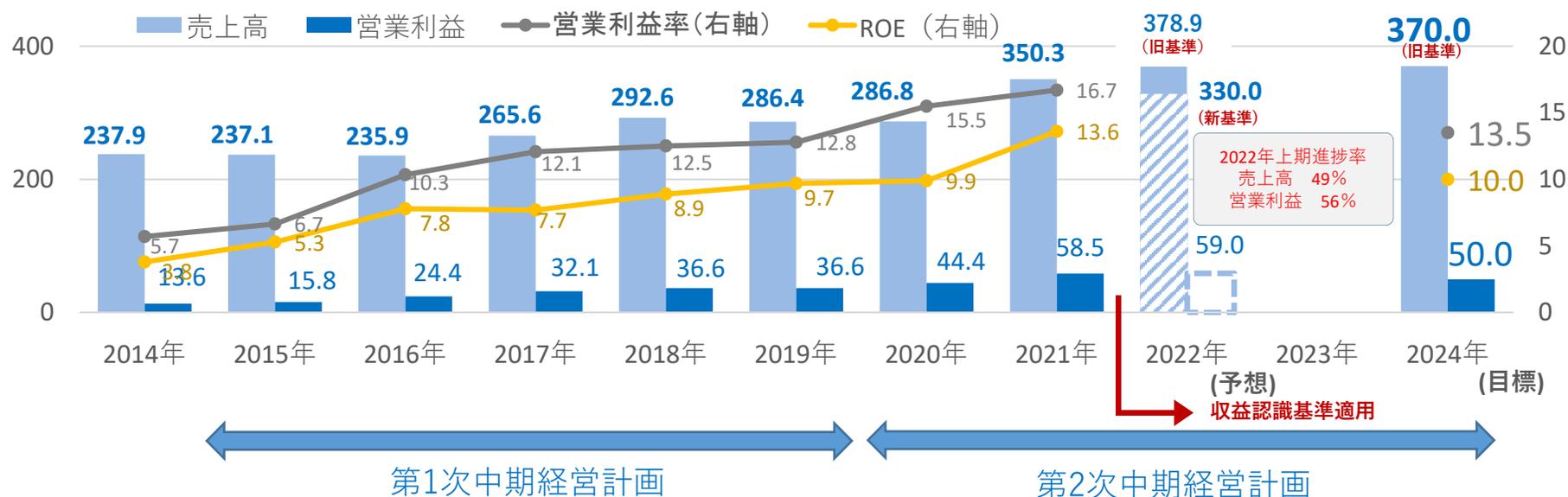
第2次中計：2020～2024年度

Next Stage 10

第2次中期経営計画の開始とほぼ同じ時期に、新型コロナウイルス感染症の拡大が始まり、世界中で経済活動が停止しました。当社におきましては、電子材料を中心とした需要増が追い風となり業績は好調に推移しました。

2021年時点で、営業利益・営業利益率・ROEは、2024年の目標値をクリアしておりますが、昨今の原油高や円安、地政学的リスクの著しい高まりを受け、計画の修正は一旦据え置いております。

引き続き、ポートフォリオの最適化を着実に進め、社会に貢献できる製品をより多く提供できる様、努めてまいります。



◆事業ポートフォリオの最適化を図るため、各種施策を適時適切に行っていきます。

事業	施策と効果の具体例 (2021年期末時点)
化成品	<p>< 特殊アクリル酸エステル（高純度品） ></p> <ul style="list-style-type: none"> 高純度品の海外展開（UVインクジェット原料の海外販売数量（2019年比）） <ul style="list-style-type: none"> * 東アジア 110%、欧州 227%に増加 米国では苦戦 バイオマスアクリレート（非石化原料を用いた製品の展開） <ul style="list-style-type: none"> * 2021年時点 新規2品目を展開
	<p>< 特殊アクリル酸エステル（低純度品） ></p> <ul style="list-style-type: none"> 選択と集中により製品構成見直し（10品目の不採算製品を削減、今後さらに16品目を予定） <ul style="list-style-type: none"> * 営業利益率は、2019年⇒2021年で1ポイント向上
電子材料	<p>< 表示材料 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 新市場への展開 <ul style="list-style-type: none"> * LCD以外の新市場への展開（μLED用材料、マイクロレンズ材料、センサー用隔壁材料）
	<p>< 半導体材料 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 最先端/周辺分野への参入 <ul style="list-style-type: none"> * 最先端EUV関連材料の売上高：2019年比 170%以上
機能化学品	<p>< 化粧品材料 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 海外展開を進める <ul style="list-style-type: none"> * 海外売上高：2019年比 200%以上 <p>< 超親水性材料 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 高機能材料の用途展開 <ul style="list-style-type: none"> * 超親水性材料売上高：2019年比 140%に増加
新規事業	<p>< エラストマー関連材料等、新規材料 ></p> <ul style="list-style-type: none"> エラストマー関連材料・有機圧電材の事業化を図る <ul style="list-style-type: none"> * 関連材料売上高：2021年 1千万円超

第72回大阪工研協会「工業技術賞」を受賞しました。

受賞テーマ：「高伸縮性アクリル系エラストマーおよび伸縮性導電材料の開発」

<開発の背景>

SDGsの取組みが進められる中で、UV硬化型アクリルモノマーは、硬化時に溶剤が不要であるため、VOC（Volatile Organic Compounds）の負荷を低減できる環境にやさしい材料です。

当社ではこれにいち早く着目し、1970年代後半から、開発を進めています。

先進技術研究所では、このコア技術をベースに、ウェアラブル・ロボティクス分野への参入を目指し、アクリル素材の特性を十分に生かした高柔軟、伸縮性エラストマーである「Suave」シリーズを設計・開発し、更に、伸縮性導電材料である「Suave-EL」シリーズへと展開を進めています。

表彰式の様子



表彰式：2022年5月20日

材料紹介画像



伸縮性エラストマー Suaveシリーズ



伸縮性導電材料 Suave-ELシリーズ

■サステナブル経営の推進

当社グループでは、長期経営目標として、E（環境）S（社会）G（ガバナンス）に関するKPIを設け、CSR重要課題である「マテリアリティ」から、「中期方針」、「行動指針」、「主な取組み」へと展開し、長期経営計画を着実に実行し、SDGsの達成に貢献していきます。

■ESGに関する主な取組み

<p>E 環境</p>	<p><CO2排出量削減> ・カーボンニュートラル実現検討委員会を発足しプロジェクトとして活動。</p> <p><TCFD提言に沿った情報開示への対応> ・2022年6月、ホームページに「TCFD提言への対応」を追加。</p>
<p>S 社会</p>	<p><ワークライフバランスの取組み> 従業員の多様なライフステージやキャリアプランに応えるため、ワークライフバランスの充実に向けた取組みに注力。 例) 男性育児休業取得の推進（目標：20%） 2019年実績4%、2021年実績…11%</p>
<p>G ガバナンス</p>	<p><経営の透明性> ・2022年2月より、取締役会議長を社長から独立社外取締役に変更。 ・役員報酬制度を見直し、業績連動型株式報酬制度を採用。</p>

<見通しに関する注意事項>

- 本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。
- 従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクにより、この業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があります、いかなる確約や保証を行うものではありません。

【お問い合わせ】
管理本部 IR・広報担当
TEL 06-6264-5071（代表）



“特殊アクリル酸エステル”のリーディングカンパニー

大阪有機化学工業株式会社

東証プライム：4187